



ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和4年9月22日
文責：校長 江上 知男

嘉島西小学校「学校運営協議会」を開催しました！



子どもに向き合う学校運営委員



真剣に発表する6年生

9月21日(水)に、学校運営協議会を開催しました。この協議会は、「保護者や地域が学校の様々な課題解決に参画し、それぞれの立場で主体的に子どもたちの成長を支えていくための仕組み」のことで、**①校長の学校運営方針を承認する ②学校運営について校長に意見を述べる ③教職員に関しての意見を述べる** という重要な役割があります。以下が本校の委員です。

荒木賀代子氏(PTA会長)・服部秀月氏(保護司)・榊原悦子氏(保護司)・田上要一氏(校区区長代表)
西山和枝氏(少年補導員代表)・後藤真貴子氏(民生委員代表)・福山辰美氏(安全見守り代表)
中冨喬氏(町学校教育課長)・増永貴士氏(町社会教育課長)・田中明子氏(地域コーディネーター)

当日は、学校運営基本方針の説明や授業参観を実施した後、6年生運営委員会が進行し、「児童会の取組」について各委員長からの発表がありました。地域の方々からは「発表内容が素晴らしい」という評価をいただくとともに、取組についての質問が出されました。そして、子どもたちから出された「地域から見た嘉島西小の課題は？」という質問を皮切りに、「地域でのあいさつ」「通学路の安全」等について、子どもたちと地域の方の活発な意見交換がなされました。子どもたちは、地域の方の意見に納得するとともに、今後の取組に思いを巡らせていました。

最後に、児童会担当の上村先生から、「行動力が高まった『6年生の姿』を、嘉島西小の伝統として5年生以下に残していきたい」というまとめがあり、地域の方々も深くうなずかれていました。

翌朝、福山委員が学校に来られ、「子どもたちが危険性を指摘した歩道橋を見てきた。行政と相談する。」と、早速動いていただきました。私は、「子どもたちの真剣な姿が周りの大人たちを動かす」という事実を目の当たりにし、改めて教育の価値を学びました。6年生のおかげです！

子育ては「あっ」という間！

職員室で、先生たちが「我が子の子育てが難しい…」と話している姿を時々見聞します。子どもの対応には慣れている学校職員も、「我が子は別」です。我が子のことになると、冷静になれず感情的になります。3人の子どもがいる私も、連れ合い(妻)と相談(ほぼ喧嘩!)しながら、試行錯誤してきました。例えば…「大雨の朝、学校に車で送るか」というとき、「判断しながら自分の足で行け」という私と、「危険過ぎるから車で送る」という連れ合いの意見はよく対立しました(夫婦の力関係で、私の意見はなかなか通りませんが…)。

私は長年子どもたちを見てきて、「依存心は厄介」と感じています。「過保護」あるいは「過干渉」の環境で生活している子どもは、自力で解決しなければならない困難な場面で、「困難に立ち向かえず回避する行動(親に頼る)」「自分で行動せず他人(友達)に困難を強要する行動(いじめ)」に出るような気がするのです。子どもたちは、特別な場合を除き、いつかは自立することを求められます。

子育てできる期間は「あっ」という間に過ぎます。「我が子の将来の姿」を考えながら、正解がない子育てについて各家庭で話し合うことはとても大切なことと考えますが、いかがでしょうか。